

木野光司 教授 経歴・著作

【経歴】

- 1954年1月 滋賀県蒲生郡安土町に生まれる。
- 1972年3月 滋賀県立彦根東高等学校卒業
- 1972年4月 京都大学文学部入学
- 1975年5月 Goethe-Institut 奨学金により Goethe-Institut Grafing 等へ語学留学（1976年3月まで）
- 1977年3月 京都大学文学部文学科ドイツ文学専攻卒業
- 1977年4月 京都大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻修士課程入学
- 1979年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 1979年4月 奈良県立医科大学進学課程助手に採用される
- 1984年4月 奈良県立医科大学進学課程講師に昇任
- 1984年9月 「ドイツ学術交流会」奨学金によりバンベルク大学へ留学（1985年9月まで）
- 1987年4月 大阪市立大学文学部ドイツ文学科講師に採用される
- 1989年4月 大阪市立大学文学部ドイツ文学科助教授に昇任
- 1995年1月 大阪市立大学「瀬川奨学金」によりベルリン自由大学で研究（同年4月まで）
- 2000年3月 「博士（文学）」（京都大学）学位取得
- 2001年4月 関西学院大学文学部教授に採用される（現在に至る）
- 2008年4月 学院留学にてフンボルト大学客員教授として研究滞在（同年8月まで）
- 2008年9月 学院留学にてミュンヘン大学客員教授として研究滞在（2009年3月まで）
- 2012年4月 阪神ドイツ文学会会長（2014年3月まで）
- 2015年4月 学院留学にてミュンヘン大学客員教授として研究滞在（同年9月まで）
- 2022年3月 関西学院大学文学部定年退職

【著作・講演・学会発表等】

I. 著書

1. 『ロマン主義の自我・幻想・都市像—E.T.A. ホフマンの文学世界—』
(関西学院大学出版会 2002 年)
2. 北岡誠司／三野博司編『小説のナラトロジー—主題と変奏—』(第1章
「虚構性と物語性—筒井康隆『虚人たち』と『美藝公』—」執筆)(世界
思想社 2003 年)

II. 学術論文

1. E.T.A. Hoffmann の『砂男』— "Phantasiewelt" の形成を中心に— (奈良
県立医科大学人文系教室紀要 "Humanitas" 第 5 号 1980 年)
2. E.T.A. Hoffmanns Liebes- und Schicksalsauffassung. Im Bezug auf sein
Lebensgefühl um die Zeit um 1814. ("Humanitas" 第 6 号 1981 年)
3. E.T.A. Hoffmann の芸術家像の変遷—『G. のイエズス教会』から『フォ
ルミカ氏』まで— ("Humanitas" 第 7 号 1982 年)
4. ホフマンにおける想像力の場合—「近代のメルヒェン」の考察—
(“Humanitas” 第 9 号 1984 年)
5. ホフマン風の幻想物語—その起源と機能の考察— (“Humanitas” 第 11
号 1986 年)
6. ホフマンの創作原理に関する考察—「カロー風」と「セラピオン原理」—
(大阪市立大学文学部紀要『人文研究』第 39 卷 1987 年)
7. ホフマンは何を批判したのか?— E.T.A. Hoffmann の社会批判の射程—
(阪神ドイツ文学会『ドイツ文学論攷』第 30 卷 1988 年)
8. 創作された夢— E.T.A. Hoffmann の『ブランビラ王女』の解説—
(『人文研究』第 42 卷 1990 年)
9. Phantastisches Erzählen. Eine "Anwendung" der romantischen Poetik?
[In:] "Literarische Problematisierung der Moderne" (iudicium verlag
1992)

10. 子供の幻想文学の誕生 — 『くるみ割り人形とねずみの王様』の考察—
(『人文研究』第44巻1992年)
11. マリオネットとアトマート — E.T.A. Hoffmann における人形モチーフ
の考察 — (『人文研究』第45巻1993年)
12. ホフマンの「ベルリン物語」[I] — 『騎士グルック』・『大晦日の冒険』・
『花嫁選び』を中心に — (『人文研究』第47巻1995年)
13. ホフマンの「ベルリン物語」[II] — 1810年代の都市の情景 —
(『人文研究』第48巻1996年)
14. 『牡猫ムル』におけるフモールの諸相 — パロディー・動物小説・二重小
説 — (『人文研究』第51巻1999年)
15. ドイツ・ロマン主義の自我・幻想・都市像 — ホフマン文学の独創性と
現代性の研究 — (京都大学提出学位論文 2000年)
16. 創作としての観察と対話 — 『いとこのコーナー窓』詩論 — (『人文研
究』第52巻2000年)
17. Faszination Automat. Erscheinungsformen in Europa und Japan. (関西
学院大学人文学会紀要『人文論究』第56巻第1号2006年)
18. マックス・ヨーゼフ一世とバイエルン王国 (関西学院大学文学部ドイツ
文学研究室年報『K Gゲルマニスティク』第13号2009年)
19. バイエルン王国初期のミュンヘン改造 — 1778年から1825年までの
業績を中心に — (『K Gゲルマニスティク』第19・20合併号2016年)
20. ルートヴィヒ一世とバイエルン王国 — 第二代国王の少年時代から即位
まで — (『人文論究』第67巻第1号2017年)
21. ルートヴィヒ一世のバイエルン王国統治 — 1825年から1848年までの
内政の考察 — (『人文論究』第70巻第1号2020年)
22. ルートヴィヒ一世の外交と文化的業績 (『人文論究』第71巻第1号2021
年)

Ⅲ. 翻訳

1. Anke Wiegand-Kanzaki/ Shinichi Minamioji: "Gewissen und soziale Kontrolle in Deutschland und Japan" (第1部: 作田啓一「社会的制御と自己制御」独訳担当) [In:] Verlag Königshausen & Neumann 1986
2. 藪田宗人編『太古の夢 革命の夢—国家論・自然論集』(J. W. リッター「ある若き物理学者の遺稿 断章」担当) (『ドイツロマン派全集』第20巻国書刊行会 1992年)
3. ヴィンフリート・フロイント (深見茂監訳) 『「ドイツ幻想文学」の系譜—テークからシュトルムまで』(第8章「不気味な没落—ホフマン『世襲領』」・第9章「幻惑された意識—ホフマン『砂男』」担当) (彩流社 1997年)

Ⅳ. 講演

1. Phantastisches Erzählen. Eine "Anwendung" der romantischen Poetik? — Theorie und Praxis bei E.T.A. Hoffmann. (日本独文学会「第33回ドイツ文化ゼミナール」講演、於: アートランドホテル蓼科 1991年3月)
2. Charakteristika europäischen Automatenbildes aus japanischer Sicht. (日本独文学会「第45回ドイツ文化ゼミナール」講演、於: アートランドホテル蓼科 2003年3月)
3. ゲーテ文学とホフマン文学 — イタリア像を中心に — (日本ゲーテ協会「ゲーテ生誕の夕べ—第260回誕生日記念—」講演、於: 大阪倶楽部 2009年8月)

Ⅴ. 学会発表

1. Beispiele japanischer Sozialisation anhand autobiographischer Texte. (日独比較文化コロキウム、於: 京都伝統産業会館 1980年5月)
2. ホフマンのメルヒェン (日本独文学会京都支部発表会、於: 京都外国語大学 1982年6月)

3. 「お化けのホフマン」からフモリストへ — 或いは現実嫌悪から社会諷刺へ — (日本独文学会秋季大会「ホフマン・シンポジウム」、於：熊本大学 1988 年 10 月)
4. ホフマンの作品世界の特質 (阪神ドイツ文学会研究発表会、於：大阪市立大学 1990 年 11 月)
5. E.T.A. ホフマンの自動人形モチーフの考察 (十九世紀ドイツ文学会第 67 回研究発表会、於：大阪市立大学 1993 年 7 月)

Ⅵ. その他

[フォーラム]

IVG ゲットェンゲン大会見聞記 (『ドイツ文学論攷』第 28 号 1986 年)

[研究ノート]

文学受容の問題性 — E.T.A. Hoffmann 受容史を一例として — (大阪市立大学ドイツ文学会 “Seminarium” 第 21 号 1999 年)

[学会設立 60 周年特別投稿]

阪神ドイツ文学会 60 年の歩み — 学会本部資料に見る活動の記録 — (『ドイツ文学論攷』第 54 号 2012 年)

[作品解説]

1. E.T.A. ホフマンの生涯とその作品について (公益財団法人東京二期会通信『東京二期会オペラ』第 294 号 2014 年 6 月)
2. 『ホフマン物語』の中のホフマン作品 (新国立劇場開場 20 周年記念公演オペラ：ジャック・オッフエンバック『ホフマン物語』「公演プログラム」2018 年 2 月)
3. パペット・アニメ “Hoffmaniada” (スタニスラフ・ソコロフ監督 2018 年公開) の日本語版『ホフマニアダ — ホフマンの物語 —』(2019 年日本公開) 日本語字幕監修及び「プログラム」作品解説 2019 年 4 月)